

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 28-004

PDCA	事務事業名	美術展開催事業	部課等名	教育部生涯学習課 生涯学習担当	担当	榊原	
					内線等	23-7341	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち 節： 第2節 生涯学習の推進 基本施策： 3. 文化の継承と創造 単位施策： (2) 文化の振興 個別施策： ①文化事業の充実					
	根拠法令等	文化芸術基本法					
	対象・目的	美術展の開催を通して、日頃文化芸術創作に携わる方の発表の場を設けると同時に、市民に多種多様で優れた芸術作品に触れる機会を提供し、市民の文化芸術に関する意識の高揚と技術の向上を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	・年4回美術展運営委員会を開催し、美術展の基本的な開催方法について協議するとともに、新たな出品者の獲得や来場者数の増加に向けた事業展開について議論する。 ・市報、HP等で美術展の開催についてPRする中で、出品者の出身地（市内外）を問わず作品を公募し、3日間、雁宿ホールで美術展を開催する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①美術展来場者数	1,811	1,547	—	人	
		事業費	1,912	1,856	—	千円	
		人件費	3,008	2,484	—	千円	
		総事業費	4,920	4,340	—	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①出品一点あたりのコスト	18	15	—	千円/品		
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①美術展来場者数	実績値	1,811	1,547	—	人
			目標値	2,100	2,100	1,800	
		②美術展出品点数	実績値	284	283	—	点
			目標値	330	330	330	
		実績値					
		目標値					
C 課題の整理		観点別評価	必要性	有効性		効率性	
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	小さい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない
	事業の評価・課題	C					
		令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、美術展の開催そのものを年度の早い段階で中止としたが、新たな出品者の獲得や来場者数の増加といったこれまで課題としてきたことについては美術展運営委員と議論を深め、次年度の開催時に新たに取り組む内容について整理した。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進				
		これまで70年以上守られてきた伝統を守りつつ、その内容を少しずつ変容させながら新たな担い手となる若者層へのアプローチを積極的に図っていききたい。具体的には美術展における作品展示や各部門が実施する講座のみならず、芸術体験講座や演奏会など併催イベントを実施することで新たな出品者・来場者の掘り起こしを行っていききたい。					
令和3年度の目標		成果指標			目標値	単位	
		①美術展来場者数			1,800	人	
	②美術展出品点数			330	点		